

## 第三章 多摩市民を支える中央図書館

この章は、全市の図書館サービスの充実を支えつつ、高度専門的な情報や多様な活動の場を提供する中央図書館像を提言しています。

3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

3-2. 基本的図書館サービスの深化と

高度に専門化された新しいサービス

3-3. 中心地区につながる開かれた中央図書館

3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

### 3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

- (1) 「知の地域創造」センターとしての位置づけを踏まえつつ、中央図書館としての役割・使命をはたします。  
来館する市民に対しても、バックアップする地域館に対しても、高度な専門性をそなえた中央図書館として、これまで到達できなかった役割をはたします。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館  
機能およびその整備のあり  
方について（答申）」  
1, (総論)より

多摩市の中央図書館整備にあたっては3つの柱を念頭にと、図書館協議会は提言をした。

- ① 多摩市の図書館システムの中核として、7つの地域館と結び合い、その活動を支えます。
- ② パルテノン多摩との連携も図りつつ、多摩市の文化・情報・教養活動の基地となります。
- ③ 学校との連携も含め生涯学習の拠点となり、市民のコミュニケーションの向上に役立ちます。

少子高齢化の進む多摩市の将来を考えたとき、高齢者にとって住みよい都市づくりはもちろんのこと、若い世代にとっても魅力的で、とりわけ子どもを育てるのにふさわしい都市づくりの視点を欠かすことはできません。

幸い多摩市は豊富な自然環境に恵まれているうえ、多くの大学が集中する地域内に位置し、さらに芸術・芸能を発信する「パルテノン多摩」という貴重な施設を持つ文化水準の高い都市といえるでしょう。しかし、そうした中で活字文化や情報収集の拠点となる図書館の現状は、とても十分とは言えず、より魅力的な文化都市を創造してゆくためには、新たな「本の館（やかた）」というべき中央図書館を建設し、サービス内容を質量ともに深めていくことが求められます。（答申総論より）

- (2) 中央図書館は、資料を提供する役割に留まらずに、市民の多様な活動の場、出会いの場を提供します。「都市の広場」、多様な世代の「居場所」となります。

- ① 子どもたちにとっての「喜びのひろば」

それは、子どもたちにとっては、かつての、はらっぱ、かみしばい、おまつりひろば、にかわる生きる喜びに出会うひろばになるでしょう。出会うことが、知る喜びの入り口にあり、中央図書館は、そんな広場を提供するのです。

- ・ベビーカーで立ち寄れる子育て広場。
- ・ゲームや遊びも取り入れた、にぎやかなスペースもとりいれたい。
- ・じょうぶな絵本、障がいのある子どもにマルチメディアサービス。

- ② ティーンズにとっての「たまり場」

それは、十代の若い人にとっては、流行の、おしゃべり場、自由広場、ラーニングcommons、であり、新しい意味での学習スペースといえるでしょう。中央図書館は、若い人たちに居場所を提供するのです。

- ・多摩市が舞台のアニメ、マルチメディア資料。
- ・映像、音楽、コンピューターグラフィックスなど若者が自ら制作できるICT環境。
- ・グループ学習や自習スペース、ラーニングcommons機能など、

- ③ おとなにとっての「知の広場」

若者の居場所。

それは、時間にゆとりのある高齢者ばかりでなく、働き盛りの壮年達にとって、ひとりの居場所、出会いの場所、知る喜びの場、生き抜いてゆくための知的トレーニングジム、おだやかさを取り戻すラウンジ、といえるでしょうか。中央図書館は「サードプレイス」を提供します。

- ・充実のレファレンス・日常市民の課題解決。
- ・ビジネス情報支援
- ・働き盛りのための図書館・多摩の地域資料/行政資料・文化財展示。
- ・ニュータウンアーカイブ・カフェ・自由広場・集会・展示。



本に出会い、ものに出会い、人に出会い、自分を確かめるひとりでふと我に返る環境。緑陰の読書テラスへの要望は基本計画や設計の段階で実現への検討がされるでしょう。



図書館の中庭ひろばでボランティアが人形劇



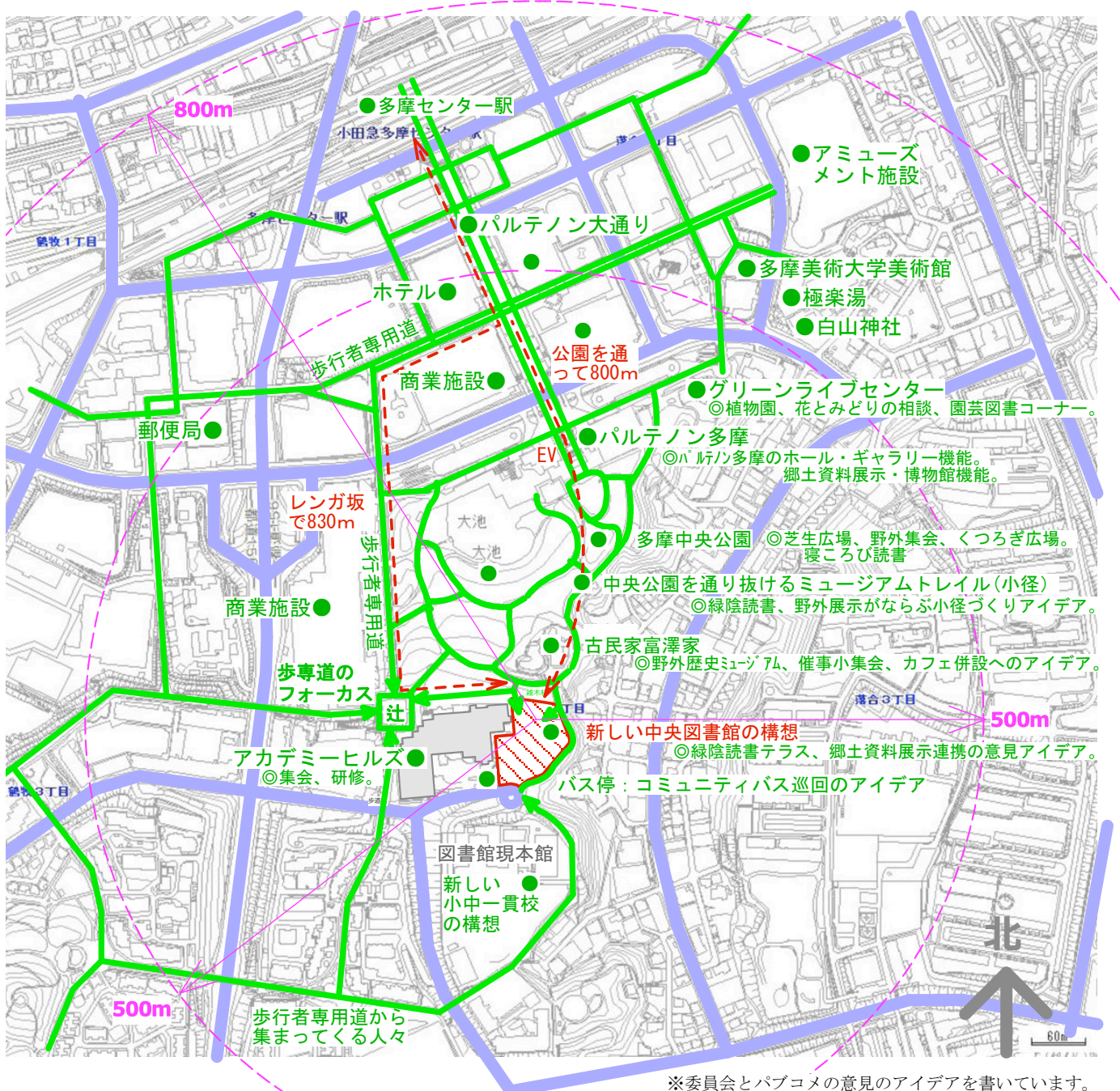
ティーンズのたまり場、ラーニングcommons



ひろば型の開架室でイブニングコンサート

(3) 「知の地域創造」センターとしての多摩センター中央公園エリアに中央図書館が配置されて、全市に向けたその役割・使命をはたします。

中央図書館がこの敷地に配置された環境を想像して、基本構想が議論されました。公園側からアプローチしてゆくときの風景や活動の見え方が大切だと話されました。北側から逆光で図書館正面に向かう形では、明るい印象づくりの工夫が必要と意見が出ています。図書館の中だけでなく、緑陰の読書テラスや、周辺の緑に突き出した読書バルコニーの魅力も話し合われました。夜間も集会や展示に利用できるゾーンは公園に開かれて光があふれていたり、教室のように机がただ並ぶのではなく、グループで三々五々に集えるラーニングコモンズも紹介されました。三次元プリンターのある図書館のメーカースペースも最近の話題です。関戸や永山の駅前図書館とは異なる、図書館活動の奥行きと広がり想像されました。



「知の地域創造」センターイメージエリア。魅力要素の配置

## 3-2. 基本的図書館サービスの深化と 高度に専門化された新しいサービス

多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支えるとして、4つの担うべきサービスについて述べています。(図書館協議会)

### (1) 「専門性が深化し充実した基本的図書館サービス」

- 1、各方面の資料、専門書を集め、資料世界の構造化と展示表現を磨きたい。
  - ・資料規模は大きく、できるだけ開架展示を。公開書庫方式も研究したい。
  - ・全国で先行している図書館の試みを研究、長期的展望で資料収集と構築。
- 2、充実したレファレンスを。日常の市民の課題解決、ビジネスへの情報支援。
  - ・職員集団の参考相談業務の技術研鑽方式を、先進市を参考に研究したい。
  - ・多摩市独自の地域資料、行政資料を充実させてアーカイブ化に導きたい。
  - ・市民生活に関わるさまざまな課題解決の役に立つ図書館をめざしたい。
- 3、マルチメディアの資料を導入し蓄積したい。
  - ・音声映像のCD、DVDなどを、主題別に混配し構築したい。
  - ・多摩市に関わるアニメや、漫画表現の主題資料も検討する。
  - ・地域館でも利用できる雑誌新聞、有料データベースを拡大。
- 4、ICT（インターネットやコンピューター技術）を導入したい。
  - ・ICチップを資料管理に加えて、混配表現導入を研究したい。
  - ・自動貸出、予約本セルフコーナーなどの展開を研究したい。
  - ・専門的データベースを含むデジタル情報資源の提供を検討。
- 5、市外の図書館ともこれまで以上に連携し、役に立つ図書館に。
  - ・京王沿線七市連携の相互利用制度を発展させていきたい。
  - ・市内大学図書館と連携して、大学を多摩市のコミュニティメンバーと考え、サービスと協働の可能性を研究したい。

### (2) 「全域奉仕・地域館支援・アウトリーチサービス」

- 1、地域館と学校へのネットワークに力をいれたい。  
移動図書館にかわる配本車導入など実物支援を充実したい。
- 2、来館困難な方には宅配システムでご希望の本を届けたい。  
広い意味でのバリアフリーな図書館アクセスをめざしたい。
- 3、幼稚園保育園、病院、老人施設ともつながるを目標としたい。  
でかけてゆく、とどける、つながる、をめざしたい。

### (3) 「全市図書館システムのセンター機能」

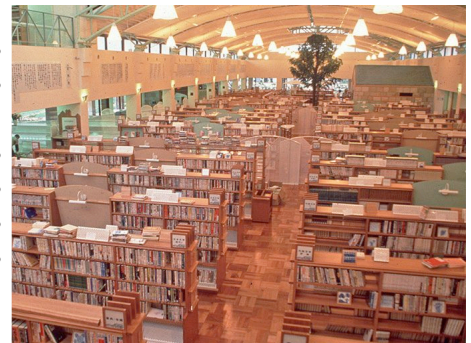
- 1、蔵書構築と情報管理、資料保存機能、高度なレファレンス、人的資源の編成と管理、地域館運営の拠り所として働く。
- 2、ICT導入で、情報の流通や資料管理を整えます。  
全市の図書館資料が共通MARCであることの強みを生かす。
- 3、利用者グループや友の会など市民との協働を受入れたい。  
図書の寄贈呼びかけ、受入れで、市民と一体化したい。
- 4、小中学校を支援し、学校図書館の活動拠点になりたい。  
教職員への支援や、児童生徒の貸出密度活性化を支えたい。

### (4) 「多様な市民と活動を支えるサービスと場の提供」

- 1、施設のバリアフリー対応は、新しい法律に準拠をしてゆく。  
弱者のアクセスを助けるミニバス循環を併行し検討したい。
- 2、催事企画もコミュニケーションサービスとして重視したい。  
他市図書館のコミュニティ担当の業務を研究しておきたい。
- 3、展示やカフェなどの交流機能を、施設計画時に検討したい。  
市民やグループが自由に使える集会や展示の場を造りたい。
- 4、自由な集会機能、ラーニングコモンズ、ボランティア活動室など図書館を舞台にした市民活動の場を、複合的に計画。
- 5、外国人や文化的背景が多様な利用者を想定し、外国語資料(絵本)や日本語習得資料、生活リテラシーなど多文化サービスに取り組みます。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
「4. 中央図書館の役割とサービス」P5～P8より  
多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。  
図書館システム全体を俯瞰しつつ左のような課題を上げています。  
基本構想では4つに再編して整理しました。

※ICT環境にはプリンターの連動など制作環境も必要。



静かな目、平和な心、おだやかな資料世界



ブックコンテナで700冊を乗せて出掛ける配本車



開架室の奥、見えて入れる公開書庫という形式



ギャラリーフリースペースで、小学生の管弦楽

さらに、各地で取り組み始められている専門化されたサービスが紹介されました。ICTなどの技術革新は、働き方、生活課題、学び方に変化を要求しています。また、社会関係の変化も個人に対応をせまります。「時間があるから行く図書館」ではなく「忙しくても行く必要のある図書館」、「時代と社会の変化を整理して課題解決型図書館」が、事例と共に基本構想策定委員会で議論されました。

## (5) 「時代が求める高度で専門化された図書館サービス」

### ①. 「自己判断自己責任」型社会への移行は、あらたな「格差」をつくっている。

企業や行政だけでなく個人も変化する社会に対応してゆくには、自ら調べ考え判断する行動様式が求められるが、「正確な情報が公平に提供される」社会のインフラが必要になる。図書館は、これまで以上に情報提供の社会インフラとしてのサービスを深化させていく必要があると想像される。

### ②. 市民の情報環境は変化し、従来の情報システムには限界がみえている。

読書のかたちは、通読型だけでなく、並列型、ピックアップ型、情報収集型に移行するが、マスコミ、出版流通、インターネットは情報システムとして限界を露呈した。専門書は流通が稀少で入手困難、インターネットは体系的網羅的な知識や考え方に対応しない。マスプロ情報の海に対峙する図書館が必要だ。

### ③. 発生する「課題」は複合的であり、公立図書館特有の総合性が有効となる。

文科省の社会教育調査で、公共施設の中で図書館が最も利用が多いとわかった。どう使えるかが周知され、出会いの広場であることも要因だが、人生で起こる問題は複合的で、個別専門的相談機関では役に立たない。総合的な分野の情報がストックされた図書館はワンストップ相談窓口、あとは使い方相談が必要だ。

### ④. まちづくりや医療介護分野に「課題解決型サービス」が各地で展開されている。

- 農林漁業・地元企業・商店への仕事情報提供、勤労者再教育などビジネス支援サービスは、資料を越えて関連機関と共同した相談・講習・催事・事業に展開。
- 地域への医療介護情報の提供では、インフォームドコンセントの為のセカンドオピニオンとして拠点病院の情報提供や自治体の医療費削減政策と連携する。
- 訴訟社会への動向に、地域への「法律情報提供サービス」が米国ではみられる。
- 行政首脳や各部門へ、政策判断・研究に資する情報提供や調査レファレンス、行政事務の効率化や職員の自己研修支援など「行政支援サービス」といわれる。
- 市町村議会議員の活動を情報収集・政策作成面から支援するサービスがある。
- 行政庁舎や行政資料室は土日閉庁であり、図書館が行政情報を市民に提供する。
- 乳幼児・児童の言語能力の育成、青少年の論理的思考能力の向上、成人労働者の情報リテラシースキルの習得、デジタル社会での就業スキル習得支援など、福祉・教育・労働など他部門の「行政施策と関連し連携する図書館サービス」。

### ⑤. あらためて、市民一人ひとりの課題を解決できる図書館の条件を掲げたい。

- 情報の専門職「司書」が必要な人数採用され、市民の情報収集をサポートする。
- 娯乐的教養的な目的だけでなく専門的多面的な方針で、本、雑誌が収集される。
- 有料のデータベースや電子書籍、AVマルチメディア資料が、無料で提供される。
- 近隣都市連携のように、都立、国会、大学図書館と盛んな相互利用を仲介する。
- 市民が自由に交流・活動し、創造につながる支援までサービスの視野に入れる。
- 館内にWi-Fi、電源などを整備して、PCの利用環境を整備する。

※出典：平成28年10月  
第五回多摩市立図書館  
本館再構築基本構想  
検討委員会より

※地場産業や商品を応援する  
地域振興ではなくて、知的  
な地域再生を支援するのが  
これからの図書館の使命だ。

※米国シアトル図書館には、  
400台のPC端末が並んでいる  
が、インターネットでは  
なくて、有料データベース  
利用を市民は目的にする。

※ビジネス支援はあたらしい  
図書館サービスの概念では  
ない。個人の自己実現を、  
図書館という組織が使命と  
考えているということだ。

※鳥取県立、秋田県立、  
都立中央、浦安市、立川市、  
田原市、広島市、小山市、  
塩尻市、伊万里市の事例。

※がん対策基本法、  
※医療専門司書の存在、  
※信大医学部図書館と松本  
図書館、がん研東病院と  
柏・流山・野田図書館の  
連携。図書館の医療相談  
デスクに看護師がいる。  
※浦安図書館は2病院に本  
を届け、患者の明るい気  
分づくり読書を支援する。

※日野市、浦安市、ほか  
議員別に政策チラシの  
ファイルが作られている。  
※行政書士とも連携する。

※浦安市図書館のAV資料数、  
有料データベース資料と  
比較研究が分かりやすい。

※塩尻図書館にあるフリー  
スペース（公共図書館の  
ラーニングコモンズ）、  
3次元プリンターのある  
メーカーズスペースなど  
創造活動支援も図書館だ。

※多摩の図書館では2010年  
から有料データベースと  
して大宅壮一文庫の Web  
配信。（雑誌1万種70万冊  
索引500万件の過去資料）

※利便な駅なか図書コーナー。  
浦安市立図書館は、市内  
3駅に高齢者雇用の奉仕  
拠点を持つ。年間貸出数  
は20万冊、全市の貸出  
200万冊の10%を担う。